

# AKIULUMINART

Public Art Project created with children

こどもたちと作るパブリックアートプロジェクト  
これまでの取り組み





# AKIULUMINART こどもたちと作る パブリックアートプロジェクト

AKIULUMINARTでは、「こどもたちと作るパブリックアートプロジェクト」を2022年より展開し、秋保のこどもたちとの協働制作を続けています。こどもたちの自由な発想や表現を地域の風景の中に位置づけることで、アートを通じてこどもたち自身がまちづくりの一員となる機会を育んでいます。



## 「巨大壁画を描こう!!」ワークショップ

アーティスト関真衣子さんがこどもたちとともに一つの大きな物語を描き上げる、壁画製作への参加型ワークショップを実施しました。このプロジェクトでは、秋保地域を中心としたこどもたち11名が参加しました。巨大壁画「キッズギャラクシー」は、水の流れや魚、太陽、そして地球を抜けて宇宙へと広がる世界をイメージし、そこにこどもたちの自由な発想で動物や魚や模様を重ねながら制作された参加型アートです。制作当日、こどもたちはアーティストとともに壁に向かい、それぞれの色や形に思いを込めながら筆を動かしました。自分の描いた一部が大きな作品の一部となっていく体験は、こどもたちにとって特別な時間となりました。

当日は河北新報の取材も入り、その様子は動画配信でも紹介され、地域の取組として広く発信されました。

この壁画は、当時新設工事中だった宮城県立秋保かがやき支援学校の仮囲いに、関真衣子さんのほかヤマウチノリヒロさん、幾何学えかきあまのさんの3名のアーティストによって描かれた巨大壁画プロジェクトの一環として完成しました。工事完了に伴い仮囲いは撤去されましたが、こどもたちが描いた「キッズギャラクシー」は、地域で共有された記憶として残り続けています。

当時の様子は冊子「アキウルミナート2022 巨大壁画プロジェクト」をご覧ください。

<https://www.akiulumina.jp/wp/wp-content/themes/al2021/images/rumiart2023/pamph3.pdf>

河北新報オンラインYouTube「仮囲いの壁画、みんなで仕上げ 仙台・秋保」

<https://www.youtube.com/watch?v=zeIn2fPLyFM>

河北新報 2022.11.28 「巨大な銀河、児童ら仕上げ 仙台・秋保 工事現場の仮囲いに壁画」

<https://kahoku.news/articles/20221127khn000016.html>



### AKIULUMINART 巨大壁画を描こう!!

11/26(土)~12/25(日)に開催される、AKIULUMINART2022に向けて製作中の巨大壁画を、子供達の手で完成させよう!

日時: 2022年11月27日(日)10:00~12:00

定員: 15名 (同伴者は除く)

対象: 小学生

場所: 特別支援学校等新築工事仮囲い壁 (拓桃支援学校跡)

集合: ジングスカン山力向かい駐車場

料金: 無料

★詳しくは裏面をご覧ください。 参加申込入力フォーム



## 巨大な銀河 児童ら仕上げ 仙台・工事現場 仮囲いに壁画

工事現場の仮囲いを使って幅約25  
㍎、高さ約2㍎の巨大壁画を仕上げる  
催しか27日、仙台市太白区秋保町湯元  
であった。青葉区の美術家関真衣子さ  
ん(37)が、地元の小学生ら10人と筆を



執った。来年10月ごろまで展示される。

「キッズギャラクシー」(子どもた  
ちの銀河)をテーマにした。参加者は  
関さんが描いた木に枝や実を付け、動  
物や魚を描き入れた。湯元小4年佐藤  
木野さん(10)は「みんながにぎやかで  
楽しい気持ちになってほしい」と願い、  
ハート形の風船などを描いた。

現場では2024年度の開校を目指す県  
立秋保かがやき支援学校(仮称)の新  
築工事が進む。仮囲いの壁画は秋保地  
区で12月25日まで開かれている催し  
「アキウルミナート2022」の一環とし  
て制作した。





Misaki	Eito
Ryouta	Nana
Kino	Shouma
Misuzu	Kouta
Mihiro	☆
Minori	
Fuki	Maiko



# 2023年

## 「未来のあきう ～100年後の秋保に残しておきたいもの～」

2023年は、「未来のあきう ～100年後の秋保に残しておきたいもの～」をテーマに、地域のこどもたちとともに巨大オブジェ制作に挑戦しました。

構想を担当したのは秋保中学校3年生。未来の秋保に残したい風景や文化、自然への想いを表現しました。

一方、素材制作を担ったのは、湯元小学校・秋保小学校・馬場小学校の児童たちです。秋保地域で出た廃材を活用しながら、一つひとつのパーツにペイントし、未来への願いを形にしていきました。中学生が描いた構想に、小学生が手を動かして応える――世代を越えた協働によって生まれた作品です。

完成したオブジェは、会期中、秋保総合支所前および秋保消防団長袋分団コミュニティ消防センター隣接地をお借りして設置しました。その後は秋保・里センター敷地内へ移設され、地域の記憶をつなぐ象徴として展示していただきました。

この作品は、実は現在も制作が続けられている！？まるで“秋保のサクラダファミリア”ともいえる作品です。

現在、その一部は佐々木美術館&人形館のツリーハウス下に展示され、来訪者に地域のこどもたちの想いを静かに伝え続けています。



# 2024年

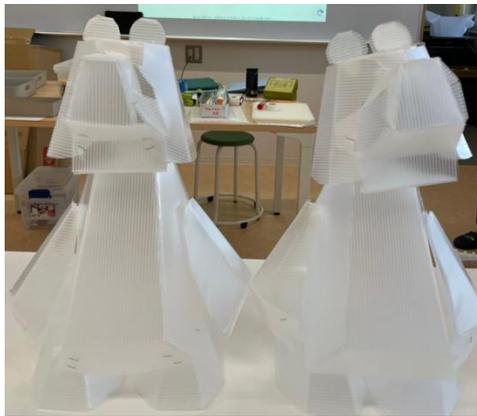
## かがやき支援学校も参戦！プラ段オブジェにペインティング

2024年は、アーティストの山本泰士さんに設計を依頼し、プラスチック段ボール製のネコとクマの立体オブジェを制作しました。軽やかな素材から生まれた白い造形は、こどもたちの表現によって完成する“未完成のキャンバス”として用意されたものです。

このオブジェに自由なペインティングを施したのは、湯元小学校・秋保小学校・馬場小学校の児童たち、そして秋保かがやき支援学校の生徒たちです。特に秋保かがやき支援学校の生徒たちは、プラ段からのパーツ切り出しや組み立てにも主体的に取り組み、造形の基礎から完成までを自らの手で担いました。色を重ね、線を重ね、思い思いの表現を加えていくことで、ネコとクマは次第に独創的でカラフルな存在へと変わっていきました。

完成した作品は、会期中、秋保の観光拠点施設である秋保・里センターに展示され、多くの来訪者の目に触れる機会となりました。会期終了後は、それぞれの学校へ作品を引き渡し、現在も校内に飾られ、こどもたちの創作の記憶を日常の風景の中に残しています。

なお、秋保中学校の生徒たちは「AKIULUMINART2024」のSNSレポート役を担いました。中学生レポーターによる作品紹介は、アキウルミナート公式Instagramにて発信され、地域のこどもたちが“つくる側”と“伝える側”の両面から事業に関わる形となりました。



# 2025年

## 圧巻！300個の「こどもランタンアート」

2025年は、紅葉期に開催された「アキウルミナ～光のもり～」の会期にあわせて、“光で地域をつなぐ”をテーマに、地域のこどもたちにランタンを制作を実施しました。湯元小学校、秋保小学校、馬場小学校に加え、秋保かがやき支援学校の児童・生徒も参加し、約300個のランタンが生まれました。

制作では、模様や風景、願いなどが自由に表現され、こどもたち一人ひとりの思いが形となりました。

完成した作品は、秋保・里センターの屋根下に並べて展示し、夕刻になるとやわらかな光が連なり、地域のこどもたちの存在を感じられる温かな空間を創出しました。

さらに同年、馬場小学校で行われた地域イベントでも再展示を実施。ランタンはイベントを越えて地域内を巡り、こどもたちの表現が人と場所をつなぐ媒介となりました。

